

新岡垣風土記

第431回

ミャンマー（ビルマ）と岡垣①

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

【はじめに】

ミャンマーという国名は、1989年に時の軍事政権がそれまでの国名ビルマを改めたのである。

ミャンマーは日本の約2倍の面積を有し、約4千500万人の人口で首都はネピドーである。

国内にはビルマ族（主要民族）とともに、カレン民族同盟などの多



くの少数民族を抱えていて、現在でも一つの国としてまとまらない複雑な国である。

アジア・太平洋戦争開戦の頃、ビルマはイギリスに支配されていた。

1942年、日本軍がビルマに攻め込んで支配した。

戦後、再びイギリスが支配するようになった。

ビルマ国内で独立運動がおこり、1948年に独立した。この運動の中心となったのは、アウンサン氏で、現在の「国民民主連盟」代表アウンサンスーチー氏の父親で「建国の父」と呼ばれた。

1962年から、国軍が政権を握るようになった。

これに対し、アウンサンスーチー氏らが「国民民主連盟（NLD）」を結成し、軍政を民主化する運動を進めた。

1990年の総選挙は、NLDが勝利した。しかし、国軍による軍政は政権の移譲を拒否した。

2010年の総選挙の翌年、軍政から民政に移管した。

2015年の総選挙でNLDが勝利し、NLDによる政権が発足した。アウンサンスーチー氏は、国家顧問兼外相に就任した。

今年2月、国軍が非合法的に政権を奪うクーデターが起きた。国軍は「前年の11月に行われた総選挙で不正があったので、選挙をやり直せ」と主張した。国軍も国会で議席を持っている。

クーデターとともにアウンサンスーチー氏らを拘束した。

これらのことに市民によるデモ等の抗議活動が広がり、国軍側の治安部隊による弾圧が始まった。6月中旬で、死者だけでも850人を超えている。

このクーデターや抗議行動への武力行使に、世界から批判の声が寄せられたが、まだ解決していない。

6月1日、日本では坂本龍一さん（音楽家）、瀬戸内寂聴さん（作家）、鎌田慧さん（ルポライター）、湯川れい子さん（音楽評論家）ら67人がミャンマー市民への連帯を表明し、日本政府に対して「国軍の

蛮行を止めさせ、民主主義への道を回復できるような支援策を講じることを求める」声明を発表した。6月17日、サッカーのミャンマー代表として来日していたピエリアンアウン選手（27歳）が、帰国を拒否する出来事が起きた。ミャンマーでは理解を示す声広がっているという。

【なぜ「ミャンマー（ビルマ）」と岡垣を取り上げたのか】

次の2つの理由からである。

①アジア・太平洋戦争中、日本軍はビルマまで戦場を広げた。それは「ビルマ戦」といわれ、英印（イギリスとインド）軍や中国軍と戦った。

この「ビルマ戦」に、国内から約30万人の将兵を動員し、約19万人の戦没者（戦死者や戦傷病死者）を出したといわれる。

岡垣からのビルマでの戦没者は、83人である。筆者の叔父もその1人である。出征した兵士の数ははっきりしないが、150人くらいいたのではないだろうか。

岡垣から「ビルマ戦」に出征した兵士たちのことを紹介したい。

②筆者が町内の内浦小学校で勤務していたとき、同僚の平野国臣先生にミャンマーからの女性の留学生（九州工業大学）を紹介された。彼女を学校に招き、3年間交流を進めた。そのことを紹介したい。

つづく